

ここまで記念品に込めた想いや小川様からのコメント、記念品作成にあたってのこだわりなどをご覧いただきありがとうございます。記念品作成の過程や様子について動画も作成し、経済学部HP内にて掲載していますので、是非ご覧ください。

その他不明な点や知りたいことなどがございましたら、学部事務室にお問い合わせください。

Thank you for taking the time to learn about the thoughts behind this commemorative item, the comments from Mr. Ogawa, and the dedication put into its creation. We have also created a video showcasing the production process, which is available on the Faculty of Economics website. Please take a look. Additionally, an English explanation is provided on the website, so we encourage you to check it out as well. If you have any questions or need further information, please feel free to contact the faculty office.



形状

記念品に込めた想いからカップ&ソーサーを作成しました。ソーサーは縁をなくし緩やかに仕上げることで多様な用途に対応することができ、単体で小皿としてもお使いいただけます。カジュアルにもクラシックにも使いがたがよく、汎用性のあるプロダクトです。



信楽焼
滋賀県の伝統産業である信楽焼。大量生産でなく一から想いを込め、一つ一つ職人の手で仕上げることで想いと技術をダイレクトに感じることが出来ます。一生に一度の卒業記念品として、長くお使いいただけるものにしました。経年による変化も独特で、趣深いものとなりますので、ご愛用ください。

原料
大学生生活を過ごしたキャンパスBKC。この地の特徴ある赤土30kgを収集し、粉碎工程により微粉末に加工し、粘土と混ぜあわせることで原料の一部として使用しました。使用の際に立命館大学で過ごした時間や風景を思い浮かべていただければ、と思います。



呈色

1210℃で焼き上げる冷却還元焼成。この焼成方法により釉薬の鉄分と化学反応が起き、独特で重厚感のあるシックな黒色に色づきます。焼き上げた黒をベースに赤：黒を9.5：0.5の割合で配合した立命館を表徴するえんじ色をまぶすようにして仕上げました。



2種類の刻印を施しました。地道に学問の道を極め独創的な研究業績を修めた故白川静名誉教授にちなんで作成された古代文字フォントの白川フォント。立命館の伝統と一つの道を極める挑戦への意欲を表現し、新しい門出にふさわしい仕上がりとなりました。

刻印



信楽長野に位置する菱三陶園。対話を通して思い描く世界観を器で表現し、具現化します。粉碎技術は想いを残したまま新たな形へと姿を変える製法で、リサイクルで思いやりがある世界唯一のものです。ここでなら私たちの想いを形にしていただけると感じ依頼しました。

窯元



記念品制作動画

記念品制作委員一同
菱三陶園様
経済学部事務室

